

令和4年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る未来を創る授業力向上協議会（社会）

【目的】 各中学校及び義務教育学校後期課程の社会科担当教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに関する説明・講義等を行うことにより、社会科教員の授業力向上に資する。

【期日】 令和4年10月6日(木) 13:30～16:20

【主催】 大分県教育委員会

【会場】 コンパルホール 多目的ホール

1 行政説明 「中学校社会における1人1台端末の効果的な活用について」

＜説明者＞大分県教育庁義務教育課 指導主事 吉住 聡

① 「R4」 大分県学力定着状況調査の結果より

質問紙調査の教科の勉強が「好き」や「分かっている」については、両項目とも増加傾向にある。しかし、学力調査の記述式の問題では、目標値を8.6ポイント下回っていることから、先生方には、生徒が思考した結果を文章で記述をする時間を大切にしてほしい。

② 目標に到達するための単元構想について

社会的な見方・考え方が働くような課題を設定し、社会科における学習過程のイメージを参考に単元構想を行って欲しい。

③ 1人1台端末の活用について

a 5つの活用事例の紹介

事例1： インターネットを利用した情報収集

事例2： 思考ツールを用いた協働的な学び

事例3： 課題把握場面でのアンケートフォームの利用→調査結果をグラフ化

事例4： 課題追究場面でのデジタル教科書の利用、思考ツールを使った情報整理・考察

事例5： 課題解決場面でのプレゼンソフトの利用、新たな課題につなげる振り返りの蓄積

b 地図サイトや統計サイトの活用について

・地理院地図（地図の比較や断面図の作成）

・政府統計の総合窓口(e-Stat)総務省統計局（高齢率の図の作成）

・地域経済分析システム(RESAS)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局及び経済産業省（昼間人口の地域間流動や産業構造のグラフ作成）



2 講義「中学校社会における社会的な見方・考え方を働かせる問いの設定と学習評価について」

＜講師＞文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤野 敦 氏

I 学習指導要領の構造

- ・何ができるようになるために、どのように学ぶか、方法を工夫していきましょう。
- ・授業改善では、「内容や時間のまとまりを構成する」力が先生方に求められている。
- ・学習過程の中では、「見通しをもつ」ことと「学んできた自分の学び方の振り返り」を大切にする。

II 「課題を追究したり解決したりする活動を通し」た資質・能力の育成

①単元構造と課題（問い）の設定

- ・「知識及び技能」の内容を「思考力、判断力、表現力等」に示された見方と考え方を働かせながら、個別的な知識を、視点をもって考え理解につないでいく。
- ・学習する過程の中で視点を与え、考えるために必要なしかけが「問い」である。

②「見方・考え方」を働かせた課題（問い）

例：地理 それはどこに位置するのか。

歴史 安土桃山時代の文化は、それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか。

公民 現代日本の社会にはどのような特色が見られるか。

※問いの設定においては、目の前の生徒にとって魅力的なハードルになり得るものを設定すること。



③単元の目標と学習課題（問い）

- ・単元の目標に到達するために、「どのような事象」を、「どのような資料」を用い、「どのような視点」で考察することが適切かを明らかにした上で学習課題（問い）を設定することが大切。

III 「指導と評価の一体化」

～教師の指導改善と児童生徒の学習改善のために～

①学習課題と観点（どのように評価するのか、何を評価するのか）

- ・「思考・判断・表現」の評価問題例 例1・・・改善の余地あり 例2・・・好事例

例1 荘園はどうして急激に増えていったのですか。荘園の発達を次の言葉を使い説明しなさい。
→説明させれば「思考」ではない。考察するための資料を組み合わせた問題に改善する。

例2 授業では朝廷の東北地方へ勢力拡大について学習しました。この話を、東北で勢力をもっていた人たちを中心に描いてみるとしたら、どのような話になりますか。次の人々を登場させてストーリーを書いてください。

→授業で学習した事象を基に、その視点を変えてこの場で考察することを求める問題。「思考」として評価できる。

※中学校での定期試験は大切な評価機会であるが、唯一の機会ではない。授業における評価場面と組み合わせることが大切。

②「主体的に学習に取り組む態度」とは？

- ・自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。
- ・地理的分野・歴史的分野・・・「見通し」「振り返り」が大切。
→教師は、生徒が自身の学習を振り返ることができる材料（資料）を工夫すること。
- ・公民的分野・・・「見通し」「振り返り」に加え、社会参画の意識の確認が大切。
→自分は社会に関わろうとしているかを考えて表現している。

3 協議「学習指導要領の趣旨の実現に向けた中学校社会の授業改善について」

＜講師＞文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤野 敦 氏

- ・生徒が将来をどう考えているのかという視点で構想された授業実践があった。
→自分たちが明るい未来をつくるためにどうすれば良いかという視点で考えることで、社会参画の意識が高まっていく。

